

「^{ソジ}SOGI」とは多様な性的指向や性自認。私たちは毎月の定例会で、院内でのSOGI支援推進のために色々な議論を行っています。

答えが出ないことも多いですが

私たちがどんな検討を

行っているのかを定期的に

ご報告いたします。

今回の議題

院内支援体制の 強化に向けて

SOGI支援チームで
院内の支援体制強化への
取組について検討しました。
今回はアライ養成研修の
あり方など検討した
結果をご報告
します。



SOGI支援チームは、本学の「高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針（令和4年1月27日制定）」に準拠し、当院内で以下の目的を達成するために活動しています。

研修、提言などの活動を通じて
附属病院職員のSOGIへの
理解を深めること

多様な性の在り方を持つ人々が
苦痛なく安心して受診、治療を
行うことができる院内環境
づくりに資すること

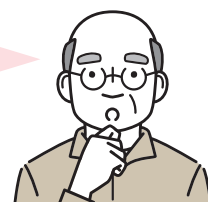
※アライとは、同盟、仲間、味方などを意味する英単語。性的少数者にとっての理解者、支援者を意味します。

※レインボーフラッグとは、その部署に一定のアライが配置され、性的少数者への理解に基づく対応を相談できることを示すもので、現在は院内のいくつかの部署に設置しています。



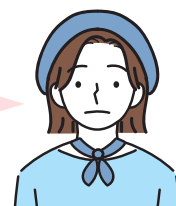
当院のアライ養成研修を受講して、院内アライ※となった職員数は令和7年11月現在160名となっています。院内アライは確実に増えてきていますが、今回ある部署から、「よく見えるところにレインボーフラッグ※を設置したい」と提案をいただきました。これまでアライ養成に取り組んできましたが、フラッグ設置場所の拡大はできていませんでした。

院内の部署からそういった提案をいただけるのはすごく嬉しいことです。昨年10月に患者さんに最初に関わることが想定される初診受付窓口、患者相談窓口、総合診療部にフラッグを設置していますが、その後、他部署にはレインボーフラッグを設置できていません。フラッグを設置するにしても、ただ設置すれば良いのではなく、そこできちんとした対応ができるだけの状態になっているのか、基準を定めて質を確保する必要がありますよね。



SOGI支援チームの設立時に策定した規則においても、フラッグ設置の基準は定めていません。「部署内の半数以上がアライである」とか、設置基準をチーム内で検討しないといけませんね。

多くの部署にレインボーフラッグ設置を進めるためには、各部署での院内アライ養成を進める必要があると思います。しかし、現在はアライ養成研修への参加は主体的なものとしていたので、院内アライ養成者数は部署によってバラツキがあります。



そうですね。これまでアライ養成研修を受講している部署や職種に偏りがありましたが、各部署に一定数の院内アライがいる状態になれば、患者さんにより安心して受診をしてもらいやすくなりますね。今後は主体的な参加だけでなく、SOGI支援が必要と考えられる部署や職種の方に、参加を促すような方法も必要になってくるのではないのでしょうか。

その後

本院のアライ養成研修は、この2年間で14回開催しています。

当初に

- ① 少人数で対話を重視した研修にすること
- ② 各個人が主体的に研修を受講し、アライになっていただくこと

を大事にしながら運営をしてきました。

本院の約1,200名の職員に対して、現在160名がアライとなり、レインボーバッジを付けてくれています。本院がSOGI支援を始める際に参考にさせていただいた順天堂大学が、自らSOGI支援に取り組みたいと思う人の数を増やしつつ、丁寧に仲間を増やしてきたことを参考に、本院でもSOGI支援チームメンバーや、アライ養成は自主性を重んじて取り組んできました。しかし、今後の更なる院内の支援体制強化に向け、少し方針を変更することになりました。

変更点 1 アライ養成

- 病院長とも相談し、医療チームの中核となる医師については、まだ誰もアライになっていない診療科が多いことから、各診療科1名以上はアライ養成研修に参加いただくよう働きかけることになりました。
- 病院運営委員会にて、病院長、SOGI支援チームから各診療科にアライ養成研修受講を依頼しました。
- 受講希望に応えられるように、本年度に入り隔月開催としていたアライ養成研修を、年度内は毎月開催することにしました。

変更点 2 レインボーフラッグの設置

- レインボーフラッグの設置基準を早急に定め、すでに一定のアライが所属している部署等については、年度内にフラッグの設置を行なっていきます。

番外編

高知にじいろパレード2025に参加しました。

2025年10月18日(土)、レインボー高知様主催の「高知にじいろパレード2025」が開催されました。本院としての公式参加は叶いませんでしたが、個人としてチームメンバーが参加しました。



- 参加したチームメンバーの声を紹介します。



他の当事者の方々と一緒に歩くことで、“ひとりじゃない”と感ずることができました。



パレード中、レインボー高知のメンバーが歩行者にティッシュを配っていて、「にじいろパレードって何ですか？」という声も聞かれました。まだまだ認知度は高くなく感じましたが、こうした活動を通じて少しずつ広がっていくことを願い、来年も参加したいと思いました。

教育現場の先生方や教育センターの方々とSOGI(性的指向・性自認)について話す機会があり、現場の課題や取組について知ることができました。



編集後記

バッジやフラッグは、当事者の人に少しでも安心していただく、声をかけてもらいやすくする仕掛けですが、大事なはその数を増やすことではありません。各部署が知恵を絞って誰もが過ごしやすい環境をあらかじめ少しでも準備しておくことや、声をかけていただいた後の対応の質を高めていくことが重要です。チームの活動や取組に協力してくれる人の数を増やし、その人たちが胸を張って「自分はアライだ」と言えるようなサポート体制もつくっていかないとはいけません。

この取組を続けることが、誰もが過ごしやすい病院になっていくことにつながると信じて、これからも途切れることなくチーム活動を続けていきたいと思っています。そして、賛同してくれる仲間をひとりでも増やしていきたいと思っています。皆さまご支援のほどよろしくお願いいたします。

来年は、本院としても公式に協力・参加できるよう、体制を整えていきたいと考えています。

チームでは、色々な部署からのご相談をお待ちしています。
みんなが過ごしやすい病院になるように一緒に考えていきましょう。

高知大学医学部附属病院 SOGI支援チーム

問い合わせ先

E-mail: sogi-kms@kochi-u.ac.jp